

世界の工業用ミシンを動かす「ヒロセフック」



株式会社広瀬製作所

「かま」はミシンの心臓部
1000種類を製造

広瀬製作所は工業用ミシンの全回転かま（フック）の世界トップメーカーだ。「かまといえはヒロセ」と言われ、「ヒロセフック」ブランドは世界シェア60%を誇る。同社は衣類、バッグ、靴等を縫製する工業用ミシンに使われる「かま」を製造・販売し、60年以上になる。ミシンの「かま」とは、下糸の巻かれたボビンを収納する部品。回転しながら、針から供給される上糸を下糸と絡ませて縫い目を作っていく。つまり、「かま」はミシンの心臓部品なのだ。「かま」の品質が縫製品質に直結する。

もちろん縫製される素材は布だけでなく、皮革、プラスチック板等、多種多様。素材の厚さも、使われる糸の材質や太さも様々である。また、直線縫い、千鳥縫い、複列縫い、刺繍縫い、ボタン付け、ボタン穴といった縫い方式によっても使われる「かま」は変わる。同社はそれぞれに対応で

きる1000種類もの「かま」を、設計から製造、販売まで自社で手がけているのだ。

また、工業用ミシンでは、縫製スピードが求められるため、「かま」の回転数が家庭用と比べると10倍以上と速くなる。工業用は1分間に7000〜10000回転しなければならぬ。高速かつ円滑な回転、さらに耐久性も求められる。それらのニーズに応えるため、産学協同で「ダイヤモンドライクカーボン」を研究。ダイヤモンドのように硬く耐久性のある「かま」を生み出し、耐久性の向上に成功している。今までに積み重ねられた技術だけでなく、より高度な加工技術、素材開発にたゆまない努力が払われている結果だ。

アジアから全世界 アパレルからあらゆる分野へ

「アパレル業界は縫製において、安い労働力を求め、海外移転が他業種より早くから進みました。それに伴い日本のミシンメーカーも海外へ進出。ですから当社も海外に進出して、10年以上になります」と話す廣瀬恭子社長。平成7年にはベトナムホーチミンに、平成9年には中国上海で現地法人を設立した。使用される現場により近い場所で生産することで、縫製工場、ミシンメーカー等の要望もわかり、共同での開発も進む。今では約9割の製品が海外で使用されているのだ。今後は、ブラジルやインド、バングラデシュ等さらなる事業展開を考えている。

「ものを縫い合わせるということは、

株式会社広瀬製作所

Company Profile

住所 / 〒555-0001
大阪府大阪市西淀川区佃4-5-12
創業 / 明治5年
設立 / 昭和26年2月
資本金 / 4,500万円
従業員 / 180名（平成21年1月現在）
TEL / 06-6476-3900
FAX / 06-6476-3902



廣瀬恭子さん
取締役社長

主な事業内容

工業用全回転フック、アルミダイカスト、各種自動化機器、防犯機器の製造・販売等

多くの分野で必要です。車のシートやエアバッグ、カーテン、畳等、アパレル業界以外にも意外に多く使われています。デザインとして縫い目の美しさもさらに重要になっており、まだまだ研究・開発する余地が多いですね。また、防犯分野にも進出し、異常信号で瞬時に霧を噴射し、部屋全体の視界をさえぎり侵入者の行動を妨害する霧噴射装置「スモークバリアー」を開発・製造している。同社は、世界のトップ企業として、常に新技術に挑みながら、社会に喜ばれるものづくりを目指している。

<http://www.hirosemfg.co.jp/>